

# 学校関係者評価

## 2011年度学校関係者評価委員会の概要

○日 時 2012年2月27日 16時00分～17時30分

○会 場 賢明学院小学校第2会議室

2011年度事業に対する学校関係者評価委員会において、学院が行った自己評価は概ね適正に行われているとの評価を頂いた。評価の過程の中で頂いた主なご意見は以下の通りである。

### I 学院全体について

調査方法について	アンケートの調査項目は3年間継続比較できるよう工夫されており適切である。
調査結果の評価について	低年齢期の調査は、実施直前の気分や雰囲気によって大きく左右されるので、アンケートの結果を一つの目安として理解すべきである。
調査項目について	授業以外の教育活動に対する取組みを評価する調査項目を増やした方が良い。

## Ⅱ 幼稚園について

全体について	数値で見ると、保育活動は保護者の期待に応えているとの判断は適切である。
保護者との連携について	保育活動が具体的にどのように営まれているかについて、日々の即日連絡を充実させる必要がある。通信等では報告に時差が生じるが、教育活動において時差は教育効果を半減させてしまう。即時性のある報告の実行を提言する。
教員の自己評価について	教員が園児一人ひとりに対する時間のかけ方が足りないと感じていると読み取れる。時間が無くとも教師が課題をもって一人ひとりの園児を見ることで、子ども理解を一層深めることも可能であり、ぜひ保育実践について研究を深めてほしい。
保育の計画性および内容について	<p>保育計画・内容についての保護者の理解が深まってきたことは評価できる。しかし、数は少ないが、全くそうは思わないとアンケートに答えている保護者に対し、少数で片付けず、それらの声にも耳を傾けて応えられるように、一層の努力と工夫をお願いしたい。</p> <p>前年度の課題として、保育内容に保護者の期待感やニーズと必ずしも一致していない部分が見られたが、研修も含めてこの課題に取り組み一定の成果を出せたことは評価できる。公開保育や保護者との通信方法をより充実・工夫させ、保護者と保育内容が共有できるよう発展させてほしい。</p>
園児の健康・安全について	課題であった危機管理体制がほぼ完成し、緊急連絡の方法も保護者に浸透してきたことは評価できる。常に訓練等を通してチェックを行い、園児が安心して学べる園にしてほしい。

### <評価を受けての改善策>

- 園児を迎えに来られる保護者の全員に対して一日の保育の様子を伝える事や、ホームページを利用した広報によって即時性のある報告を心がける。
- 保育計画立案時に園児一人ひとりの観察課題を組入れる。

### Ⅲ 小学校について

調査の実施方法について	低学年の場合、アンケートの質問項目への解説の仕方や、質問項目の読み聞かせの仕方によって、回答が左右される事に留意して、アンケート結果を評価すべきである。
いじめについて	「いじめられたと感じることがある」の回答数が多い事にもっと着目してほしい。朝の時間や道徳の時間だけでなく、いじめの改善に向けた取組みを具体的に実施して欲しい。
教育内容について	<p>子供たちが、「学校生活が大変好きである」と回答しているのは、授業や行事に対する先生方の努力の結果であると理解できる。しかし、高学年になって同一項目の値が低下している事について、単に受験勉強が難しいからであると結論付けるのではなく、学ぶ楽しさを伝える努力をして欲しい。</p> <p>アンケート結果では、全体的に良い方向に向かっているが、以前からの課題であったが、3年生、4年生において、「とてもそう思う」の評価数値が低下する傾向にある。1年間の取り組みでほとんど改善されなかったことは残念である。原因をよく分析して学校を上げて取り組んで頂きたい。</p> <p>学校の教育方針を保護者にしっかり伝えようという課題は、数値結果から評価したいが、高学年になるほど宗教教育に反発する傾向が見える。賢明学院にとっては根幹をなすところなので、全教職員がこのことを課題として共有し、改善に取り組んで頂きたい。</p>
学校施設及び安全について	<p>施設とその利用については、トイレは改修も含めかなり改善されたと評価する。今後も安全確保のための指導も含め、児童が常に安心して過ごせる環境づくりをさらに進めて欲しい。</p> <p>緊急時の行動等についての保護者・児童への徹底が、残念ながら十分な数値結果に至っていない。児童の安全確保のためにも、今一度徹底する方法等を見直して取り組んで欲しい。</p>
教員研修について	<p>大多数の教員は、賢明学院の教員としての自覚のもとに、校長を核としてよくまとまり任務が遂行できているようですが、アンケート結果から見えてくる教員についての課題は、学内研修をさらに充実させるなど方策を講じて資質の向上を図って欲しい。</p>

### <評価を受けての改善策>

- いじめを根絶するために、きっかけとなる言動を見つけた時点での指導を徹底する。同時に、教員終礼時における報告と相互連絡によって翌日の指導に反映させる。
  
- 「興味関心が自学自習の要」であるとの理念を週案や授業に反映させる。そのための意見徴収の場として、授業参観の回数を増やし、学年ごとの授業研究や教科ごとの授業研究を積極的に行う。特に、自ら調べて発表する機会を増やすように工夫する事で授業を改善していく。

#### IV 中学高等学校について

全体について	学校生活に対する満足度が驚くほど高い。学校が好きになっているとの評価は妥当であろう。ただし次年度以降においては、学校が好きである具体的要素を浮き上がらせる質問を織り込んだ調査をするようにして欲しい。
生徒指導について	心の教育に対する期待値が高いと理解すべきである。子供を私学に通わせている保護者の願いがここに表れていると理解して頂きたい。個別指導にも大きく期待している。
保護者との連携について	面談回数の満足度が高い事については、学校が評価されている通りであると言える。これに満足すること無く、更なる高みを目指して頂きたい。
教員の評価について	<p>教員の自己評価結果は、ほとんど前年度と変化がない。賢明学院の教員としての意識・資質の向上を目指して、学校として組織的に養成に取り組んで頂きたい。</p> <p>服装・態度・挨拶等、主に基本的な生活習慣の確立など、指導目標を立てて実施してきた事項については、教育成果が出ているので、さらに継続して欲しい。</p>
保護者の評価について	<p>保護者との係わりを深めることで、学校理解を深めていただくという目標は、かなり達成されたのではないかと。前年度の結果を踏まえ、取り組んできた、生徒指導・健康・安全指導については、保護者の理解と評価を得つつあることは望ましいことである。</p> <p>中学生の保護者が学習内容とクラブ活動内容に不満の声があることが気になる。わかりやすい授業、有意義なクラブ活動を目指して工夫と努力を惜しまず取り組んで欲しい。</p>

#### <評価をうけての改善策>

- 宗教の授業を行っているだけで、その理念が全生徒に浸透していくわけではない。教員はホームルームの時間や生徒会活動にこうした教育要素を組入れて指導する必要がある。また、学外の方の講演会等を年間行事に盛り込み、心に対する情操的教育が受けられるよう計画する。
- 保護者面談については、今のところ定期考査後の定例面談しか実施できていない。保護者の声を反映した教育活動に取り組むためには、学級単位の面談と個別面談併せて、学期毎に3回実施できるよう計画していく。